

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ポテトタウン北の沢	評価実施年月日	平成21年2月27日～3月9日
評価実施構成員氏名	菘島美保子、遠藤 省子、梅澤 美紀、吉田 麗子、徳留智恵子、浜田 雄美、二川 朱美		
記録者氏名	永野 譲	記録年月日	平成21年3月9日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>穏やかで人間らしい暮らし 自分らしさや誇りの持てる暮らし 住み慣れた地域での安心した暮らし</p>	○	認知症を理解し、理念を基本としたケアに全職員が取り組んでいる。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>新規採用の職員研修や毎月の月例会でも理念の意義を認識し共有している。 日々念頭に置くよう職員の休憩室やリビングに掲げている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入所時に運営の理念を詳しく伝えと共に、具体的な形で(定期的なニュースや介護記録の送付)理解していただけるよう努力している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>冬の期間は外出の機会も少ないが、夏は近くの公園に出かけたり、回覧板の受け渡しなど、話す機会も増えている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の催事は回覧板などで知らされているが、急な坂道が多いため利用者の全員参加は難しい状況だが、飲食物の訪問販売などでなじみの関係になっている。 子供110番の家として、地域活動に参加している。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議などで民生委員の方や町内会を通じて、介護予防や認知症に対する理解や悩み事等、相談やアドバイス等でいつでも協力できることを伝えている。</p>	○	介護支援専門員を中心とし、認知症に対する理解や高齢者の勉強会などを開いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全員で取り組み、外部評価の結果を踏まえ実践している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	3ヶ月に1度、地域を代表するメンバーに集まっていたり、ホーム内での行事や取り組み、状況等を報告している。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の管理者会議や地区の管理者会議だけでなく市や他のグループホームと連携をとりながらサービスの向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要と思われるケースが現状では見あたらないため、職員の理解は不十分である。	○	成年後見人制度等は、全職員とまでは行かないが、個々人が、学習に取り組んでいる。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	朝の申し送りや、月例会では、身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待に関しても、常に情報を共有し、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、当ホームの理念や重要事項等、詳細に説明し、家族の不安・疑問を時間をかけ傾聴し、理解・納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>毎月の全職員の月例会で、各利用者の近況、変化、意向等を話し合い、それに沿って利用者の意向を反映した運営が行われるよう努力している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会時にはホームでの生活状況、ケアプランの確認、受診内容、金銭出入の確認等をして頂いている。職員の移動や担当者の変更も文書で報告している。</p>	○	<p>利用者の各居室には職員の顔写真と名前を掲げ、ご家族来所の際顔と名前が一目で覚えて頂けるよう配慮している。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情受付箱を設け、ご家族の訪問時にも、何でも言ってもらえるよう声掛けし、出された意見、要望等は全職員と話し合い、反映させている。</p>	○	<p>現在まで苦情箱を利用された方はおられませんので、今後も苦情のない施設運営に取り組んで行く。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>朝の申し送りや月例会では、全職員が意見を述べる事が出来る体制作りをしている。また改善できることは職員の意見を取り入れて反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者のペースに合わせて職員のシフトを組んでいる。しかし職員が急病の時など緊急時の職員確保に短期間では対応できるが、長期間になると難しい現状である。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>少人数のグループホームのため、職員の移動は少ない方と思うが、職員の意向も尊重し、働きやすい環境作り努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な相談者には、それなりの柔軟な対応が必要だが、まず本人、ご家族の要望をお聞きして、最善の道を話し合う。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご家族と共に見学していただき、雰囲気を覚えてもらい、利用者のペースに併せて、環境になじめるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家族団らんのような暖かい雰囲気の中で、生活歴を生かした生活をしていただき、その中から職員も学ぶという機会を得て、共に支え合った関係づくりをしている。	○	利用者と職員が、時間の許す限り側に寄り添い、その日の出来事、新聞を拾い読みして聞かせるなど、利用者の表情も見逃さないケアに取り組んでいる。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	月に一度のお手紙や電話連絡、面会時には日常生活状況を細かく伝え、情報の共有に努めている。	○	利用者のご家族同士の悩みや困っていることなど、ご家族、利用者を中心とした集える空間作りに取り組んでいきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	お手紙、電話、FAXや面会時に日常生活の変化などをお伝えし、本人とご家族のつながりがより良い関係で継続できるよう努力し支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	古き友人、知人等が見えた時は、いつでも気軽に訪問されるよう働きかけ、電話等も好きな時間(深夜以外)に利用できるようになっていいることを伝える。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係について職員全員が把握しており、孤立することなく共同作業やクリエイション等を通じて関わり合い支え合えるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者が入院退所の場合などには、出来るだけ機会をつくりお見舞いに伺い、退所された利用者のご家族には、困っていることや相談事があったら、いつでも来て欲しいと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日のかかわりの中で、ご本人の意向をくみ取り、把握するように努めているが、本人から希望や意向が聞かれない場合には、ご家族からの情報などを得ながら、本人のニーズにつながるよう検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人はもとより、ご家族からの聞き取りと併せ、サービス利用決定時に「センター方式」による基本情報を記入していただくことを徹底し、これまでの暮らしの把握に努めている。	○	長い間一緒に暮らしていないご家族からは情報が少ないため、入所後本人の日常生活の中から、時間をかけ把握するように取り組んでいる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活のリズムを把握し、その時の状況に合わせ、心身状態、有する能力など、現状を十分に把握して、介護に生かせるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月の月例会(介護職員全員と計画作成担当者が出席)が介護計画のモニタリング、カンファレンスの場になっている。それに各利用者の担当職員が聞いた本人、ご家族の要望を加味して次の計画が立てられる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは、担当者を中心に、朝の申し送り時や月例会で検討されている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合には、ご本人、ご家族と話し合い、本人のニーズを中心に介護計画の見直しを行う。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	それぞれの記録等は毎日こまめに記入している。本人の言葉やそれに伴う表情などまでも簡潔に記録し、情報を共有している。それがケース記録に反映され、介護計画書の見直しに至る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人やご家族の状況や要望に応じて、医療機関等への通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、個々の要望に臨機応変にお答えしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地区の民生委員の方は定期的にお見えになり、ボランティアの方から入所者の皆さんに手編みのマフラーが届けられたり、お茶会などを開くなどの交流がある。また地域の消防署には、消防計画の作成、消化避難訓練などでの、立ち会い、指導を頂くなど連携を密にと心掛けている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容を中心に支援を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議も10回を数え、情報交換もスムーズになり、必要に応じてご協力いただける体制が整ってきた。また地域包括支援センターの方々の適切なアドバイスが有効な時もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日常は、地域の協力医(かかりつけ医)に往診で対応してもらっている。但し、本人、ご家族が希望する、かかりつけ医への対応も、希望に応じて支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医の診断、治療、指導や助言を受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員は確保されていないため、協力医の助言をもらい支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には頻繁に職員が面会を行い、ご家族との情報交換も密にして、ケースワーカーとも情報交換し、退院時の支援体制を整え、速やかな退院支援に結びつけている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化のおそれが見えた場合、早急にご家族など関係者との話し合いを持ち、全員で方針を共有するようにする。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合や終末ケアに向けて、ホームの体制が整っていないこと等はご家族の理解を得ているが、今後は、重度や、終末期の利用者に対して、本人やご家族の意向を踏まえ、医師との連携を密にし、対応していく体制を整える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>移り住むことになった場合、アセスメントやケアプラン、その他介護の記録などを提供すると共に、新しい担当者の方と綿密な情報交換を行い、リロケーションダメージを最小限に食い止めるように努める。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>理念で、「自分らしさや誇りが持てる暮らし」を実践し、職員全員に周知徹底している。また、個人情報の持ち出し禁止に向けて契約書を作成し、署名捺印している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の中で、本人が思いや希望を表せるよう働きかけ、表情や全身での反応を含め、注意深くその人の欲求を把握するよう努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを把握し、その人のその日の自由な過ごし方を基本とし、個別的な対応を支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎日の朝の着替えは、本人の意向を尊重し、天気や気温などを勘案して助言するようになっている。行事等外出の際のおしゃれなどはそれぞれ楽しんでもらえるように配慮し、見守り、支援を行っている。理容・美容には本人の意見が反映されている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の食事の好みは把握されており、嫌いな食べ物は取り除き、他のメニューに替え、その時々希望に合わせて献立が組み立てられている。また、食後の後片付けや食器などの洗い物は利用者と職員の共同作業で行われている。</p>	○	<p>利用者と一緒にメニューを考えたり、昔食べた好きな食べ物など、個人に合わせ一品加えられるよう、取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居時に嗜好品を把握し、主治医からの指示のもと、食事やおやつなど、それに沿って提供できるような体制を取っているが、疾病により摂取制限をされている方には随時説明し、納得頂いている。喫煙は防災上場所を決め、職員が見守っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、時間誘導を心がけ、気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在は週4回の入浴日があるが、入浴の順番も平等になるよう順番を変えたり、体調に合わせて支援している。	○	夏場は入浴日以外でも(シャワー浴等)好きな時間(深夜以外)に利用できるよう取組んでいきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の体調に配慮し、日中の活動、生活のリズムを作るよう心がけているが、安眠にはそれぞれにパターンがあり、寝付けない、眠りが浅い、夜中の徘徊など、その人の症状、身体的、精神的な状態に合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活の中で、自然に役割が分担されており、声掛けしなくてもお手伝いする方、みんなの話しの聞き役など、その人にあった役割が出来ている。職員はそれらの動きを見守り支援している。	○	現在は、食事の後片付けや洗い物のお手伝い等に限られているが、食事作りや盛りつけなども、共同作業により出来るように取組んでいきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者個々で違いうが、金銭管理がしっかり出来る場合は本人が、それ以外のご家族の希望や同意により、ホームで管理させていただき、小遣用金銭出納帳に記入し、家族に確認してもらう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調に合わせて、戸外に出かけるが、冬場は急な坂道が多いため、ご家族の協力をいただき、個人個人で外出している。	○	利用者のご家族同士のおつきあい等がないので、今後、家族会等を開いて行けるよう努力する。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に1, 2度はみんなでのお出かけの機会を設けるようにしている。動物園や水族館、お花見やイチゴやサクランボ狩り、博物館や陶芸教室、そして手作りのお弁当や外食。毎月の催事をみんな楽しみにしている。ご家族への参加も呼びかけている。	○	毎月の催事にはみんなの意見を聞きプランを立てている。外食もバラエティに富んだ選択の出来るお店を選んでいる。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある時は電話はいつでも使用でき、個人で携帯電話を利用され、家族と毎日連絡を取っている方や、手紙を書きFAXで送ったりもしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や友人、知人の訪問は大歓迎で、面会時間の制限もなく、何時でも来訪出来るよう配慮している。食事時間に見えた方には食事やおやつも提供し、一緒に過ごして頂けるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	見守りを強化し、身体的はもとより、精神的な面でも拘束のないケアに徹底している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠しておらず、1日何回も、帰りますと言って外に出て行こうとする方もいるが、声掛けし、一緒について行く必要がある場合にはさりげなく同行し、安全面に配慮し見守りに徹している。	○	居間、食堂、台所は見通しが良く開放感にあふれている。人の出入りもよくわかり、施錠の必要を感じない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は各人の所在、様子など、訪室し確認し、夜間は巡回や、物音などで状況を確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみ、爪切り、裁縫道具などは職員が管理しているが、必要に応じ提供している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	随時記録されている事故やヒヤリハットに関する報告は、申し送りや、月例会などで対策を確認し、利用者一人ひとりに応じた事故防止、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	介護職員全員が救命救急の講習を受け、地区の消防士の方から応急処置や救急蘇生の指導も受けている。	○	今後定期的に救命救急の講習の受講などに取り組んでいく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、消防計画を作成し、「非常事態避難マニュアル」に基づく避難訓練、消火器の使い方などを含む自衛消火訓練を実施。利用者と共に避難訓練を行う。	○	消防訓練の際、施設内だけの訓練にとどまらず、地域の人々の参加も呼びかけ、協力を得られるよう取り組んでいく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者に起こりうるリスクについては、入居時や状態の変化のあった時点でご家族に説明し、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調や表情などの些細な変化もケースに記録し、申し送りを行い、情報の共有に努め、管理者に報告、場合によっては主治医の判断を仰ぎ速やかに対応が出来るようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容はファイルに保管しており、職員がいつでも確認できるようになっている。副作用については主治医からのアドバイス等を参考に症状を把握し、服用は確認投薬を行い、誤薬、欠薬のないよう努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘がちな利用者には、水分を多く摂るよう促し、腹部を温める。効果のない場合は主治医の指示により、下剤投与し、排便のコントロールをする。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に義歯洗浄やうがい等、それぞれに応じたケアを行っている。また義歯の不具合を訴えられた時には歯科受診を支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量やおやつなども毎食チェックし記録に残し、水分量も把握し、咀嚼、嚥下状態に合わせ、お粥食や刻み食など一人ひとりにあった内容に工夫し、支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前食後のうがいや手洗い等、徹底し、来訪者や職員もノロウイルス等の感染予防を徹底している。またインフルエンザの予防注射は利用者、職員全員が受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所は清潔、整頓を徹底し、冷蔵庫の清掃もこまめに行い、賞味期限は毎日チェックしている。まな板、包丁は使用する度に消毒している。週2回定期的に食材のチェックを行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関横にはベンチやテーブルを置き、外気浴や、お茶を楽しんだり、近隣の人が立ち寄り、交流が出来るように工夫している。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者の共用の場所にはソファが置かれ、横になってテレビを見たり、自由にお茶などが飲めるようにコップやポットもセットされている。</p>		
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>新聞や本なども用意され、孤独を楽しみたい時には一人で過ごせるよう、食堂の椅子なども自由に使用することが出来る。</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は、入所前に使われていた、ベッドや家具など、使い慣れたものを持ってくるようにご家族にお話しし、最初から、馴染みの物に囲まれた場所になっている。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>本人が出来ない場合には、居室の掃除、寝具交換、排泄臭や室温の管理も行い、部屋の乾燥防止には、本人の洗濯物を室内に干したり、濡れたタオルを掛けるなど、湿度にも状況に合わせて対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>本人の身体機能に合わせ、ベッドの高さの調整や、家具の配置なども、転倒につながらないよう、本人ご家族話し合いの上工夫している。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者一人ひとりの状態から、何が出来るのか、どうしたら意欲がわくのか、毎日の生活の中から見極め、混乱や失敗のないよう、話し合い検討し、身体機能を発揮できるように工夫している。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物のまわりは、花の鉢やプランターなどが置かれ、椅子やテーブルが設置され、お茶やお弁当、バーベキューなどを楽しめるよう工夫されている。小さな野菜畑もみんなの楽しみの一つになっている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・利用者一人ひとりのニーズに合わせての寄り添いのケア
- ・お誕生会、年間行事